

# 令和8年度庄原市幼保小連携・接続に係る研修会

令和8年6月9日（火） 西城小学校

幼児期の保育・教育の特質や内容等について理解を深め、接続カリキュラムの充実を図ることにより、幼児期の保育・教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目的に、研修会を行いました。

## 【授業参観・事後協議】

算数科「あわせていくつ ふえるといくつ ～たしざんであそぼう！たしざんランド～」

西城小学校 第1学年担任 高根 知見



習ったことを活用して行う「たしざんランド」を単元ゴールとして設定し、授業を構成した。「たしざんランド」では、園・所での遊びを想起し、児童が慣れ親しんだ遊びである「おすし屋さん」と「魚釣り」を取り入れ、楽しみながらたし算ができるような工夫があった。

また、活動をするにあたり、困ったことや思うようにいかないことがあったときにも、じっくりと待つ姿、教え合う姿が見られた。就学前の園・所との連携と、入学後のスタートカリキュラムの実施により、児童が安心して過ごす環境づくりが何よりも大切である。

## 【講話・交流】

庄原市教育委員会 指導主事 延近 恵



小学校と園・所の担当者で、自所属のアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの交流を行った。

接続カリキュラムは作ること自体が目的ではない。作成した接続カリキュラムをもとに、修正を加えながら、子供の育ちや学びをつないでいくという「児童理解」の視点が不可欠であることを確認した。

## 【参加者の振り返りから】

- 「分かりません」が言えること、「失敗しても大丈夫」と思えることを大切にして、児童が安心して学べる学習集団づくり、環境づくりを行っていきたい。
- 身近な生活と結び付けた授業を展開することで、子供の興味をひくことができるし、やる気につながる感じた。
- 学んだことを改めて言葉にして思い出す、復習するという姿が、今まさに保育所でも育てたい「言葉の力」につながると感じた。
- 保育所で日々大切にしている日常が、そのまま小学校へつながり、学びになり、自信となっていくのだなと思った。接続を意識し、これからも日常を大切にしていきたい。